

「やってみるのだ！」

いけ はら とも ひろ
校長 池原 智宏

保護者並びに地域の皆様方には、本校の教育活動に御理解、御協力そしてひとかたならぬ御支援いただいておりますことに心より感謝申し上げます。新型コロナウイルス感染症にしましては、北海道内において感染者が現在も拡大し続けております。寮内でも感染者が増え、11月16日(水)から11月25日(金)まで、今年度2回目の休校措置を余儀なくされました。寮という共同生活の中での感染症対策の難しさに日々苦悩しているところです。保護者の皆様には、突然の休校にも関わらず帰省などの対応に御協力いただき誠に有り難うございました。今後も、感染症対策に村と連携を取りながら、生徒達にとっての最善な対応を進めて参りたいと思います。御家庭の御協力も引き続きよろしくお願いいたします。

さて、音威子府村にも11月4日(金)に初雪が降り、12月2日(金)には、19センチの降雪量を記録しました。その雪景色からも本格的な冬の到来を感じる季節となりました。11月1日(火)～3日(木)には、村の教育委員会の力添えをいただき、音威子府村公民館にて3年ぶりの「文化祭」が開催されました。生徒達の軽音楽部による演奏や作品展示で村民の方々に学校の活動を広く披露することができました。非常によい機会を得られたと思います。

今年も生徒達の活動の活躍がありました。高文連全道大会では、2年貞野岳仁くんが立体部門で全国推薦をいただき、第34回有島武郎青少年公募絵画展では、2年石上陽菜さんが入選を果たし、第14回美術工芸甲子園では、3年安念末喜さんが審査員特別賞を受賞しました。おめでとうございます。賞を惜しくも逃した生徒の皆さんも、本当によく頑張りました。新型コロナウイルス感染症の影響で様々な活動に支障をきたしている中での作品制作は、大変だったと思います。これからも、創作活動に意欲を燃やしてください。

日頃からデザインを学んでいる生徒の皆さんに紹介したい人がいます。椅子のデザインも手がける有名なスイス生まれのフランス人建築家、ル・コルビュジエです。ル・コルビュジエは、20世紀を代表する近代建築家の巨匠の1人です。家具のデザインは、従兄弟であり建築のパートナーであるピエール・ジャンヌレとシ

ャロット・ペリアンとの共同作業から誕生しています。彼の、建築・都市計画・家具の設計は、実用的な機能主義の理論に基づいています。彼は「機能性」を極めていけば、デザインは自ずと洗練されていくという考えを持っていました。そこに住む人の暮らしや使う人を中心とした考え方です。本校で学んでいる「ものづくり」に通じる、使う人を中心とした学びではないでしょうか。作品制作などで悩んでいる皆さんに、近代建築家の四大巨匠のひとり、ル・コルビュジエの言葉を贈りたいと思います。「やってみるのだ！」。ル・コルビュジエは、正規の建築大学を出ておらず悪戦苦闘しました。しかし、自らの考えを貫き通し、希有な建築家として名を残しました。生徒の皆さんも、失敗を怖れず自分の考えを貫き、考えを徹底的に問いかけていきながらやり通せば、きっと解決の光がみえてくるのではないのでしょうか。ル・コルビュジエの作品は日本にもあります。東京上野にある「国立西洋美術館」です。機会があれば、西洋美術とその建物同時に鑑賞してほしいと思います。

コロナ禍の中で始まった一年、令和四年が暮れていきます。保護者の皆様には、各学校行事等への御協力、また、日頃の生徒本人との連絡による見守り協力等々、学校教育への御理解、御支援をいただき誠にありがとうございました。皆様に支えられ、見守られ今年も無事に終えることができそうです。心よりお礼申し上げます。今回の帰省を機会に御家庭で年末年始を楽しんで欲しいと思います。できれば、日頃電話ではなかなか話せないお話しなどをしていただきたいと思います。

最後になりますが、新型コロナウイルスの感染リスクもまだまだ心配されますので、普段会わない方と会う場合は、より一層の感染防止行動を、発熱や咳などに加えいつも体調が違う時は、外出や移動を控える、積極的に病院受診をお願いいたします。生徒の皆さん、保護者の皆様、地域の皆様、そろって元気で新しい年を迎えられますようお祈りいたします。

「寮生活について」

舎監長 須藤 由希子

新型コロナウイルスの流行で、昨年度から継続し、寮日課や行事の変更を行っております。保護者の皆様におかれましては、学校の休校と寮の閉鎖時に御理解と御協力をいただき、感謝

しております。休業明けは、自粛期間をしっかりと設け、毎日の検温や手洗い等に生徒にも協力してもらい、お互いに気を付けながら寮生活を過ごしています。生徒からの要望もあり、昨年度導入したIHクッキングヒーターは利用する生徒も増え、それぞれお菓子作りや、パスタやうどん等の調理に利用しています。今後は寮生会役員を中心に、必要な調理器具の追加等を検討していく予定です。

今年度は5月に新入寮生歓迎会を3年ぶりに開催することができました。コロナ禍ということもあり、規模を縮小した形式になりましたが、どの学年も初めての新歓ということもあり、ジーンズカンや焼きそばを食べながら学年を越え、楽しい時間を過ごせたようです。3年生から「最後に行者にんにくを食べたい！1年生にも食べて欲しい！」という強いリクエストもあり、当日の朝早くに行者にんにく取りにも出かけました。

各学年の寮レク、祝祭等の寮行事も延期などがありました実施しております。未定の物にしましては、今後も感染予防と健康管理に気を付け、随時実施していきたくと思います。冬休みの帰省となりますので、学校生活や寮生活についてご家族でお話しいただければと思います。

「ものづくりを通じた人づくり」

工芸科長 角南 友繁

おと高では3年間を通して、たくさんの「ものづくり」を行います。絵画や木工など、様々な「ものづくり」を経験することで、一人一人が表現力や技術を磨いていきます。

ただし、「ものづくり」を通して学んでほしいことはそれだけではありません。自分について理解する力、相手のことを考える力も育ててほしいと考えています。

「自分はこんな作品が好きだ」とか「こんな作業が苦手だ」など、自分の好き嫌いや得意不得意を理解すること。

「こう仕上げた方が安全だ」とか「この形にした方が持ちやすい」など、ものを使う人や場面のことを考えて形にすること。

こうした経験を積み重ねることで、自分について理解する力、相手のことを考える力が身に付いていきます。おと高で行う「ものづくり」は、単に表現力や技術を磨くだけではなく、自分について理解する力、相手のことを考える力など、生涯にわたって生きてはたらく力の育成に繋がるものだと思います。

みなさんが「ものづくり」を通して学んだこと、経験したことを生かして、人やもの、暮らしを大切にすることを育み、大きく成長してくれることを願ってやみません。

おと高 Story

《村文化祭》



11月1日(火)から11月3日(木)の3日間、音威子府村文化祭が3年ぶりに開催されました。

芸能発表において軽音楽部がバンド発表を披露したり、授業や部活動で生徒が手がけた作品を展示したりしました。多くの村民の参加があり、大変好評でした。

《3年赤ちゃんふれあい体験》



11月1日(火)、音威子府村保健福祉センターから保健師を講師として招き、「妊娠、生命誕生について」と題して講演を頂いた後、妊婦疑似体験セットを着用して妊婦体験、乳児の人形を用いた「おむつ換え」等、赤ちゃんのお世話を体験しました。

生徒たちは、妊婦さんの負担が大きいことや、子育ての大変さに気づき、「相手を尊重し、思いやる気持ちを大切にしていきたい」と話していました。

《2年高大連携授業》



12月13日(火)、東海大学 国際文化学部 デザイン文化学科から中尾紀行先生をお招きし、「希望の君の椅子」と題して高大連携授業が行われました。

生徒たちは、実際に試作やスケッチ、完成作品に触れ、デザインについての理解を深めました。この貴重な経験を今後の作品制作や学習活動に活かしてほしいものです。